

# 新世代コルクで表現するデザイン

多様なデザインに対応する多彩な色調とパターン



今やバリアフリー、ユニバーサルデザインの欠かせない素材となっているコルク。伝統的日本のコルクフロアのデザインは、50年前からほとんど変わっていないベーシックなデザインである。欧米のコルクフロアは、その年ごとに流行のデザインが変化している。形状・機能としては、少なくとも数度の革新的なモデルチェンジを行っており、天然のコルクの良さを強調したデザインに驚く日本人が多い。欧米のデザイナーは、日本で伝統的に使われてきたコルクフロアと異なる新しく現代的なデザインを好む。こうした興味深い文化的ギャップについて、APCORのパウロ代表に尋ねた。

コルクはコルク樅の樹皮から作られる100%天然素材である。木材に含まれるセルロース分がないためシロアリなどの被害がない。また、カビも生えないため、アレルギー対策に効果があることも明らかになっている。

使用済みコルク床材は粉碎して再利用できる。採集は9年ごとに木の皮をはぐるので、コルク樅の森がそのまま残る。森はCO<sub>2</sub>を吸収して球温暖化防止に貢献している。コルク

(詳細はジャーナル2011年5月号)

## 畳は南欧、コルクは日本

「日本の畳が大好きでポルトガルの家でも使っています。日本では夏に不在で閉め切っていたら、畳がカビだらけになってしまいました。だから日本ではカビの生えないコルクフロア、夏場に乾燥するポルトガルでは、日本の畳がいいですね」

### PROFILE

パウロ・トランコン / 長崎県大村市で勤務後コルク業界に入り、ポルトガルコルク工業会の日本代表を務める。日本とポルトガルと行き来しながら、コルクの理解と普及に取り組んでいる。



ポルトガル語でモンタドと呼ばれるコルク樅の森は、原産地であるポルトガル、スペイン、フランス、イタリア、チュニジア、モロッコ等に分布。ポルトガルには3分の1の森がある。採取量のシェアは50%。他国からも輸入し、世界の75%のコルクをポルトガルで生産している